

1 全体総括

今回の機関評価においては、関係所管部局との連携の下、各試験研究機関の使命・役割を明確にし、組織運営におけるマネジメント上の課題を中心に、現地調査も実施し評価しました。

特に使命・役割については、各試験研究機関の設立の目的、歴史的変遷、専門領域等の違いから、県の計画や推進方針に沿い明確になっている機関もある一方で、県の特徴を踏まえた使命・役割の設定が必要である機関もあります。

県の試験研究機関全体にわたる事項として、今回の評価を通して浮かび上がってきた次の諸点に関し、検討の必要性を指摘することで、全体総括とします。

(1) 中長期研究開発戦略の策定

試験研究機関の使命・役割については、計画や方針を策定し明確になっている機関と県の特徴を踏まえた設定が必要な機関があります。

使命・役割を明確にするとともに、試験研究機関としての中長期研究開発戦略を策定することが求められます。

(2) 職員の高齢化に伴う技術の伝承

現実の問題として各機関が対応に苦慮していますが、伝承すべき技術内容・ノウハウ等、また、人事異動や退職を見越して、事前に計画的に推し進める必要があります。

(3) 研究者の計画的人材育成

研究者の計画的人材育成については、各機関で外部研修への参加等OFF J T教育は積極的に実施していますが、各機関が将来像を描く中で、研究レベルおよび個々の研究者の育成目標を設定し、O J T教育も含めて中長期的かつ計画的に人材育成を図る必要があります。

(4) 研究活動におけるプロセスマネジメントの実施・定着

全機関を比較すると、かなり進んでいる機関がある一方で、遅れている機関が見受けられます。

先行している機関は「研究開発QA体系」の整備等を図ることにより、一層充実していくことを期待します。一方、遅れている機関については、研究者のモチベーション、人材育成、上司とのコミュニケーション、期日管理等、効率的な研究活動の推進に向けた改善が必要となります。

(5) 研究成果の積極的PRと成果の定量的効果把握

すべての機関で、多くの研究成果を上げており県民への貢献も果たしていますが、研究成果のPRや実施後の効果の把握については、一層の工夫が必要であり、一般消費者目線での情報発信に努力を望みます。

(6) 施設の老朽化への対処

全機関共通の基本的な重要問題であると考えます。一部の機関では建て替えの方向で検討していますが、大半の機関では老朽化が激しく、また狭隘で研究に支障を来している所も見受けられます。厳しい財政状況であることは十分承知していますが、是非、あらためて取り上げ対処する様お願いいたします。

なお、最後になりますが、前回平成19年度の機関評価における指摘事項については、一部継続案件を除き、おおむね前向きに取り組んでいると思われれます。